

## 第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

## 1. 農学部附属農場ガス管漏洩修理工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内O・P-16、Q-15区

調査期間 平成15年11月25・26日

調査面積 約12㎡

調査担当 田畑直彦

**調査結果** 農学部附属農場へガスを供給しているガス管が漏洩した。このため、急遽漏洩箇所の復旧工事が行われることとなった。漏洩箇所を確定するために、A～C地点の3ヶ所で掘削してガス管を検出することとなり、工事に際して立会調査を実施した。

A地点では、現地表下約34cmまでは統合移転時の造成土であった。約34～66cmが青灰色シルト(オリーブ灰色シルトが混じる)、約66～88cmがオリーブ黒色シルト、約88cmから掘削深度の130cmまでは青灰色シルトで、これらは河川の埋土と考えられる。遺物は出土しなかった。調査地の東側の実験水田では、農学部バイオ環境制御実験施設新営に伴う発掘調査で古代の河川が検出されており、同一の河川である可能性がある。

B地点では、現地表下約90cmまで掘削したが、造成土の範囲内であった。調査地東側の道路造成による埋土と考えられる。

C地点では、現地表下約200cmまで掘削したが、大部分は造成土の範囲内であった。しかし、西側の一部の箇所では、現地表下約60cmで緑灰色粗砂を検出し、掘削深度の110cmまで同層が続いていることを確認した。河川の埋土と考えられる。遺物は出土しなかった。調査地の東側の農学部連合獣医学科棟の敷地では、縄文時代晩期の河川、北側のボイラー室周辺では、古代の河川が検出されており、これらに関連した河川である可能性がある。

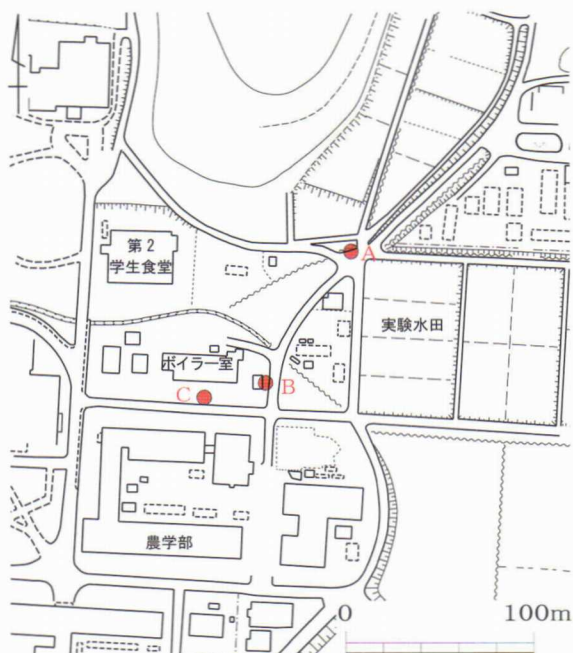


図4 調査区位置図



写真1 C地点土層断面(北東から)

## 2. 教育学部附属養護学校給食調理員専用トイレ新設工事に伴う立会調査

**調査地区** 吉田構内C-21区

**調査面積** 約1.7㎡

**調査期間** 平成16年1月16日

**調査担当** 田畑直彦

**調査結果** 教育学部附属養護学校にトイレを新設するのに伴って、新たに排水管を布設することとなった。工事による掘削は幅約70cm、長さ約2.4mで、深さは現地表下約50cmであった。調査の結果、掘削は造成土の範囲内で埋蔵文化財への支障はなく、工事は続行された。

このように掘削は小規模のため、埋蔵文化財に支障はなかったが、調査地の北側では平成11年度に行った給食室増築に伴う試掘調査で、縄文時代の河川、弥生時代の土坑などが確認されており、今後も埋蔵文化財の保護に十分注意を払う必要がある。

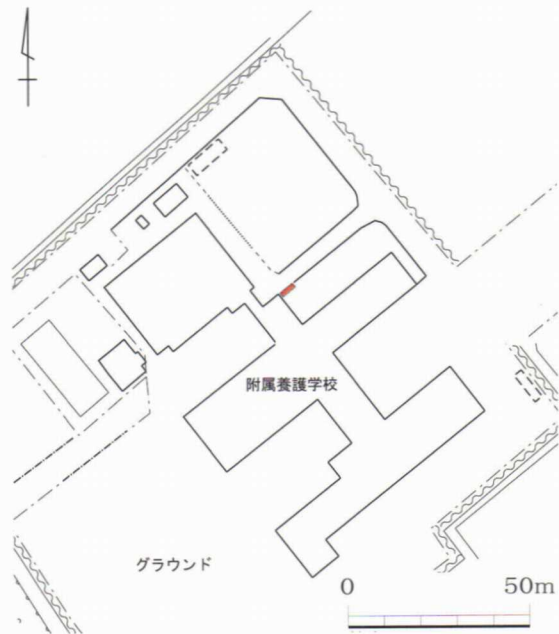


図5 調査区位置図

## 3. 農学部環境観測実験棟南側温室土中の機器搬出工事に伴う立会調査

**調査地区** 吉田構内P・Q-15区

**調査面積** 約52㎡

**調査期間** 平成16年1月27日

**調査担当** 田畑直彦

**調査結果** 農学部環境観測実験棟南側に位置する温室の地下に埋設された機器の撤去が計画された。しかし、設置当時の関係者がおらず、埋設位置が不明であった。そこで、温室を撤去し、東西約6.5m、南北約8mの敷地全体を対象に、掘削により機器の埋設箇所を確認して撤去することになった。

調査の結果、現地表下約25cmまでは表土、約25～65cmまでは造成土、現地表下約65cmから掘削深度である75cmまでは、統合移転前の水田耕土であるオリーブ色粘質土であった。このため埋蔵文化財に支障はなく、工事は続行された。



図6 調査区位置図

#### 4. 理学部中庭通路屋根新設に伴う立会調査

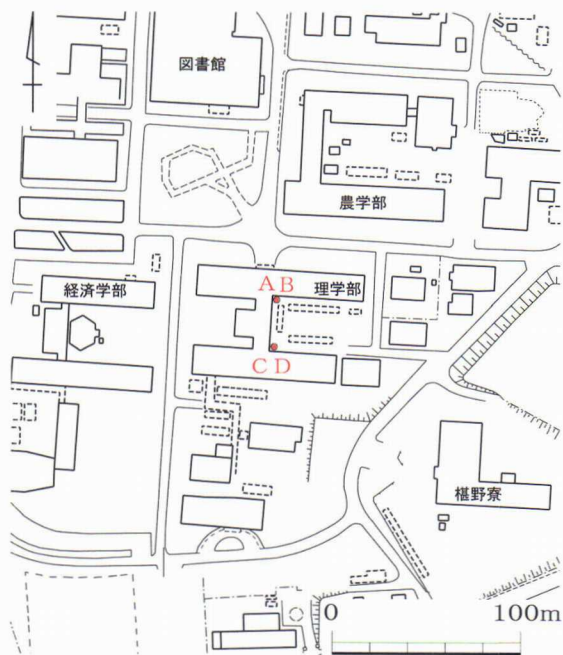


図7 調査区位置図

**調査地区** 吉田構内N-19区

**調査面積** 約5.8㎡

**調査期間** 平成16年2月12日

**調査担当** 田畑直彦

**調査結果** 理学部中庭の通路屋根について、北側と南側の校舎間の未設置箇所の新設が計画された。このため、支柱部分の北西側のA地点、北東側のB地点、南西側のC地点、南東側のD地点の4ヶ所、それぞれ120cm×120cmの範囲について立会調査を行った。

A・B地点は現地表下約65cmまでが校舎の基礎、約65～95cmまでがバラス、約95～120cmまでが地山であるオリーブ灰色シルトであった。C・D地点では、現地表下約70cmまで掘削したが、いずれも造成土の範囲内であった。

#### 5. 理学部中庭あずまや新設工事

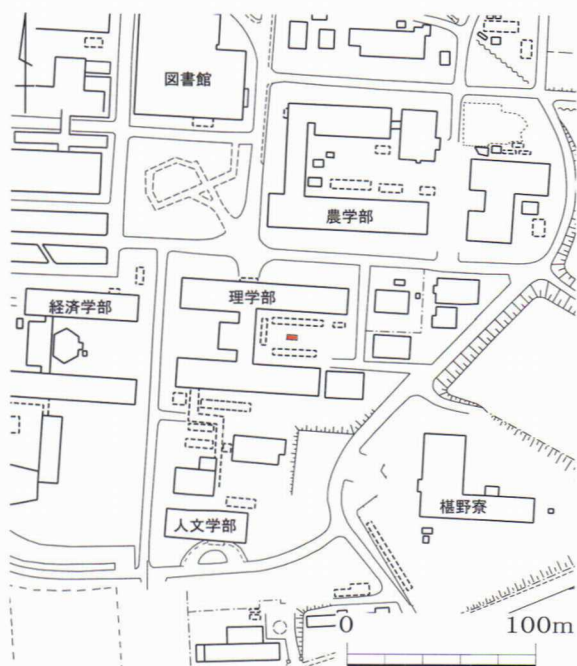


図8 調査区位置図

**調査地区** 吉田構内N-19区

**調査面積** 約6.8㎡

**調査期間** 平成16年2月23日

**調査担当** 田畑直彦

**調査結果** 理学部中庭にあずまやの新設が計画された。このため、支柱部分の北西側のA地点、北東側のB地点と南西側のC地点、南東側のD地点の4ヶ所、それぞれ130cm×130cmの範囲について立会調査を行った。

その結果、現地表下約84cmまでが造成土、約84～93cmが統合移転前の水田耕土である灰色シルト、約93～110cmが水田床土であるオリーブ灰色シルトであった。このため埋蔵文化財に支障はなく、工事は続行された。

## 6. 基幹環境整備(外灯新設)工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 F-16、G-13~15・18、H-14、I-16・19、J-19、L-12、Q-15区

調査面積 約11.5㎡

調査期間 平成16年2月27日、3月19日、23日

調査担当 田畑直彦

調査結果 平成7年度以来、吉田地区基幹環境整備の一環として、毎年度計画的に構内の外灯が新設されてきている。本年度は排水処理センターから陸上競技場までの道路沿いに3基、陸上競技場の北側に1基、体育館の周囲に2基、教育学部の周辺に3基、本部裏の牧草地に1基、農学部環境観測実験棟の北側に1基、合計11基の外灯の新設が計画された。この工事に伴い、外灯が新設されるA~K地点で、各々基礎部分の約100cm×100cmの範囲について立会調査を行った。

A~C地点は、排水処理センターから陸上競技場までの道路沿いに新設された外灯基礎部分の調査地点である。A地点は、現地表下約13cmまでが表土、約13~128cmが造成土、約128~137cmが水田耕土ないし床土、約137~160cmが緑灰色シルトの地山となる。B地点は、現地表下約15cmまでが表土、約15~106cmまでが造成土、約106~120cmが水田耕土ないし床土、約120~150cmが緑灰色シルトの地山となる。C地点は現地表下約120cmまで掘削したが、全て調査地の西側に布設されている排水溝布設時の造成土であった。

D地点は、陸上競技場の北側に新設された外灯基礎部分の調査である。現地表下約20cmが表土、約20~47cmが造成土、約47~67cmが水田耕土ないし床土である。以下は河川埋土と考えられる。約67~8

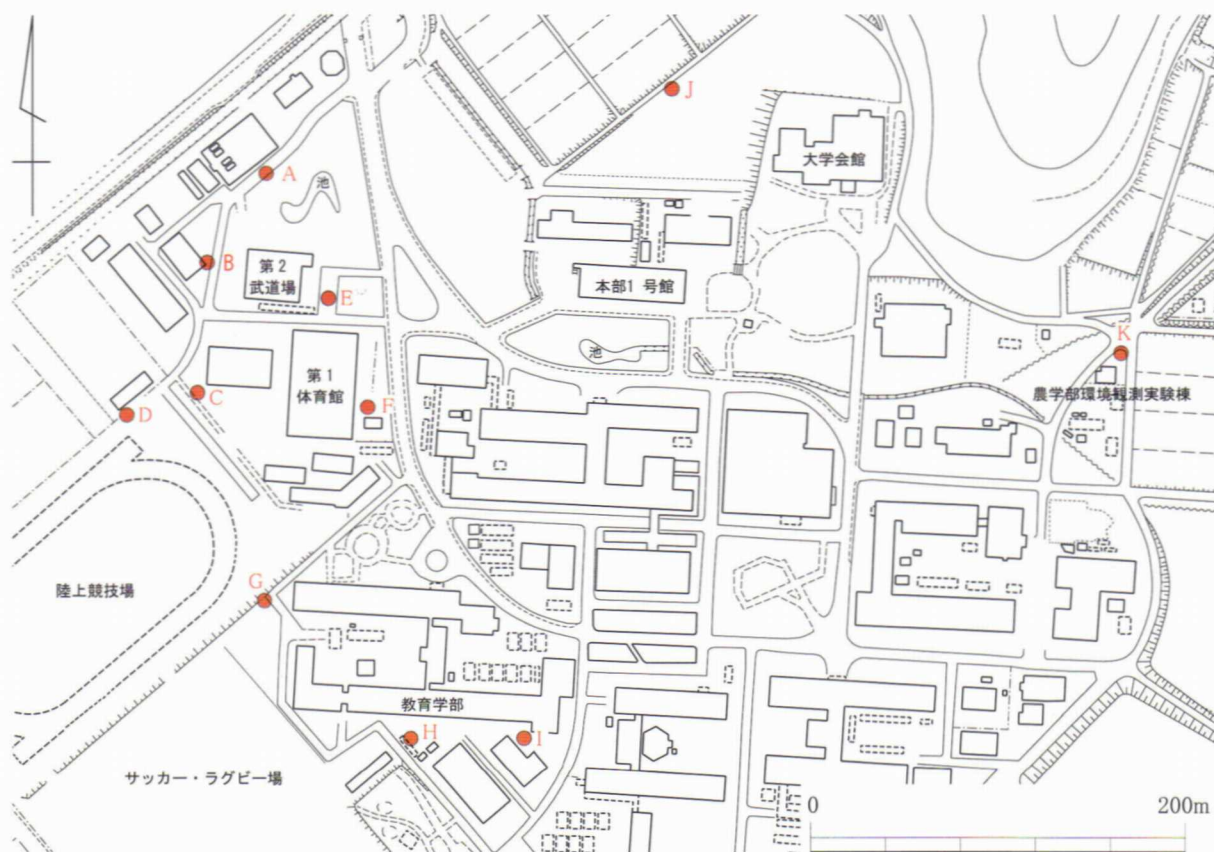


図9 調査区位置図

3cmが緑灰色シルトで、弥生時代以降の遺構面の可能性がある。約83～119cmが灰色粗砂、約119～140cmが茶褐色シルトであった。遺物は出土していない。

E・F地点は体育館の周囲に新設された外灯基礎部分の調査である。E地点は現地表下約11cmがアスファルトの路面、約11～105cmが造成土、約105～126cmが水田耕土ないし床土であった。以下は河川埋土と考えられ、約126～161cmが黒褐色シルト、約161～170cmが灰色粗砂であった。遺物は出土していない。F地点は現地表下約132cmまでが造成土、約132～141cmが河川ないし遺構埋土と考えられる黒褐色シルト、約141～155cmが茶褐色粘質土の地山であった。遺物は出土していない。

G～I地点は教育学部の周囲に新設された外灯基礎部分の調査である。G地点は現地表下56cmが造成土、約56～67cmが水田耕土、約67～75cmが水田耕土であった。以下は河川埋土と考えられ、約75～106cmがオリーブ灰色粗砂、約106～128cmが淡黄色粗砂、約128～148cmがオリーブ灰色粗砂であった。遺物は出土していない。H地点は、現地表下約34cmが表土、約34～84cmが造成土、約84～96cmが水田床土であった。以下は河川埋土と考えられ、約96～130cmが青灰色粗砂、約130～156cmが黒褐色シルト・灰色シルトの互層で土器細片が出土した。I地点は現地表下約30cmが表土、約30～66cmが造成土、約66～86cmが河川堆積土である黒褐色粘土(青灰色シルトのブロックを含む)、約86～100cmが河川堆積土である灰色粗砂であった。以下は地山で約100～113cmが青灰色シルト、約113～150cmが青灰色粗砂であった。

J地点は本部裏の牧草地に新設された外灯基礎部分の調査である。現地表下約97cmが表土・造成土で、約97～120cmが水田耕土、約120～140cmが水田床土であった。これと同一レベルで水田暗渠を検出した。造成土から磁器小片が出土した。

I地点は農学部環境観測実験棟の北側に新設された外灯基礎部分の調査である。現地表下約40cmが表土、約40～82cmが造成土、約82～105cmが水田床土、約105～150cmが青灰色シルトの地山であった。

以上、今回の調査では広範囲にわたる地下の土層を確認することができた。ほとんどの調査地点では造成土が厚く、統合移転時の造成による削平をほとんど受けていないことが判明した。また、今回の調査地の多くは谷状地形ないし低地部に位置するため、D・E、G～I地点では時期不明であるが河川を検出し、F地点では、河川ないし遺構埋土と考えられる土層を検出した。これらの調査地周辺の既往の調査でも溝や河川が検出されており、今後の施設整備にあたっては、埋蔵文化財の保護に十分な注意を払う必要がある。



写真2 D地点土層断面(東から)



写真3 H地点土層断面(東から)